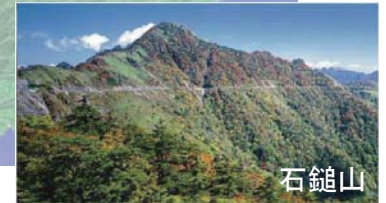


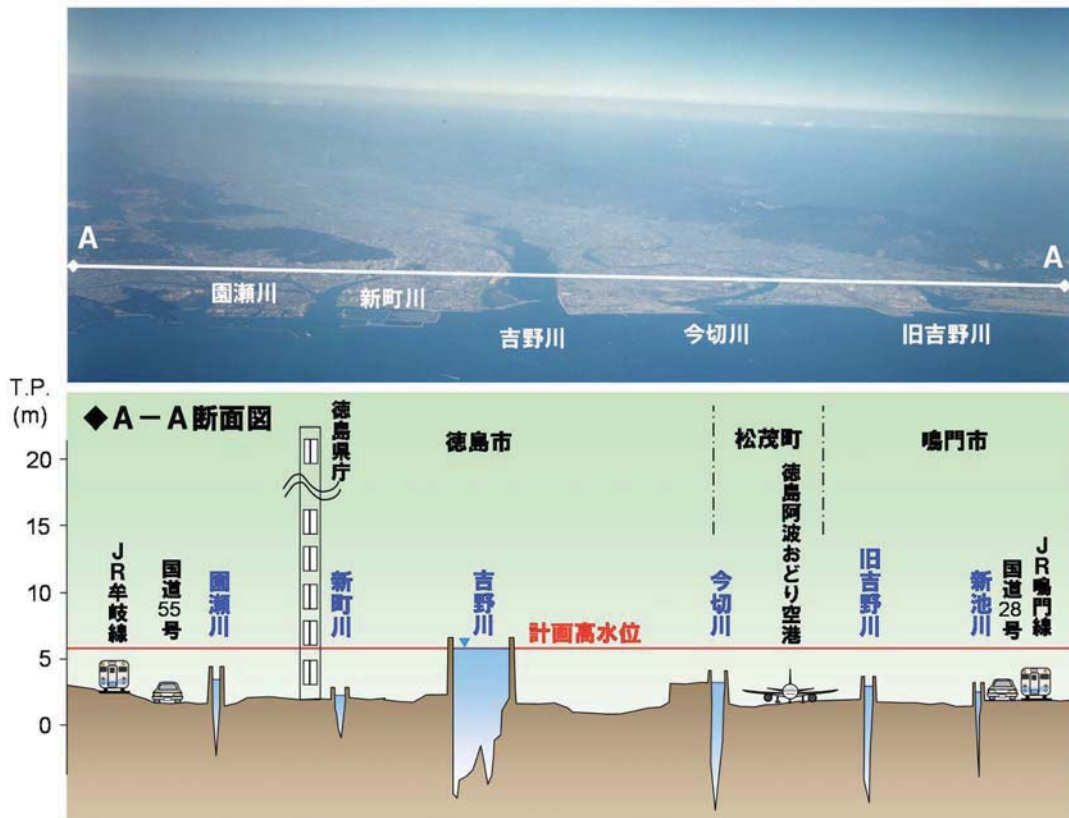
## 吉野川流域の概要

- 吉野川は、その源を高知県吾川郡の瓶ヶ森(標高 1,896m)に発し、四国山地に沿って東に流れ、敷岩において穴内川を合わせ、北に向きを変えて四国山地を横断し、銅山川、祖谷川等を合わせ、徳島県池田において再び東に向かい、岩津を経て徳島平野に出て、大小の支川を合わせながら、第十地点で旧吉野川を分派し、紀伊水道に注ぐ。幹川流路延長 194km、流域面積 3,750 km<sup>2</sup>の一級河川である。
- 吉野川流域は、四国4県にまたがり四国全体の約20%に相当する広さを持ち、下流域には徳島県の拠点都市である徳島市を擁し四国における社会・経済・文化の基盤となっている。
- 吉野川の水は流域外の高知県側、愛媛県側、香川県側に分水されており、四国4県にわたって広域的な水利用が行われている。



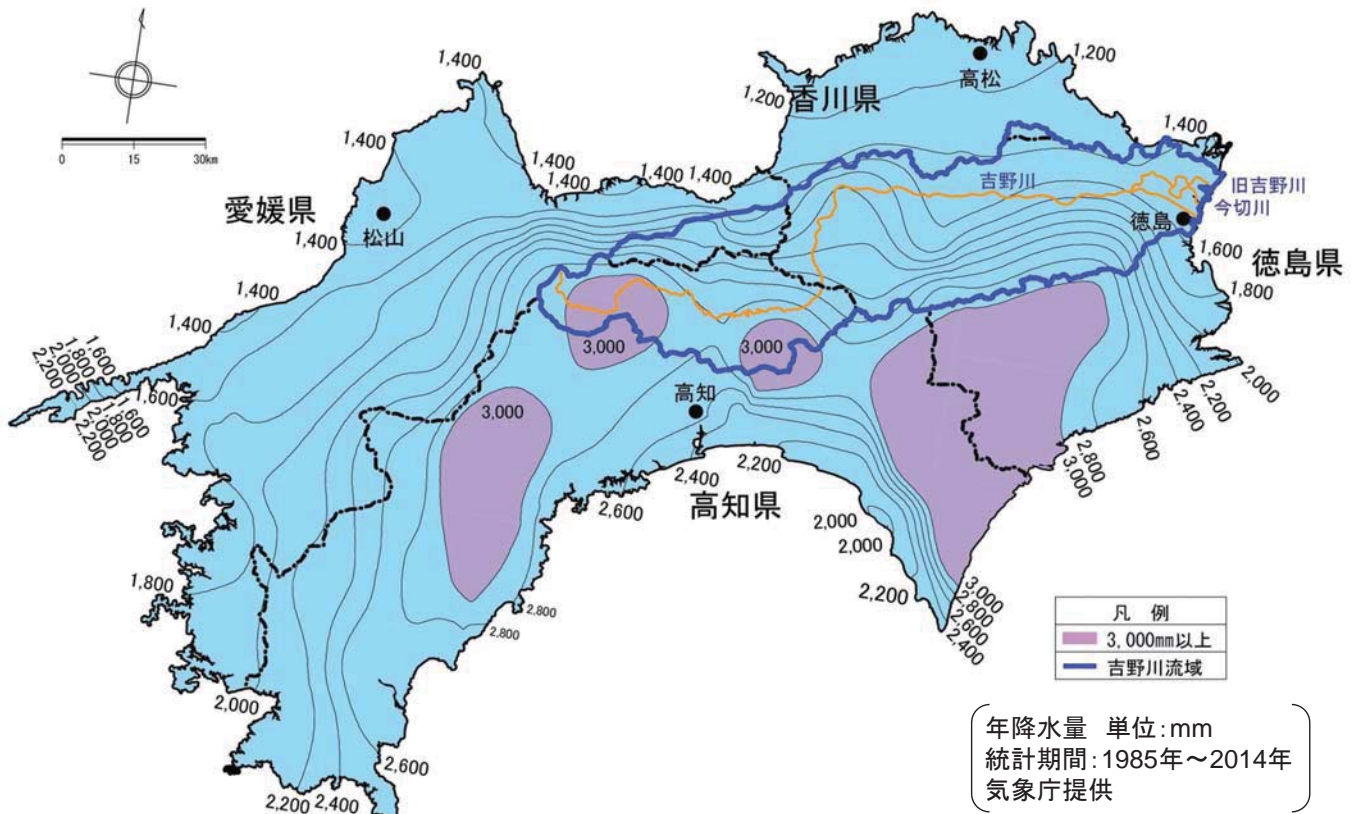
## 吉野川流域の地形

- 流域は、下流に見られるわずかな平野のほかは起伏の多い山地で占められ、平地面積が約1割(480km<sup>2</sup>)に対し山地面積は約9割(3,270km<sup>2</sup>)である。吉野川下流に広がる平野部は、地盤高が吉野川の計画規模の洪水時における水位より低く、堤防の決壊はん濫による被災の危険性を有する。



## 吉野川流域の気象

- 上流の山間部は、年降水量が3,000mm以上に達する多雨地帯であり、降水量の大部分は梅雨期と台風期に集中している。
- 台風来襲時には、西から東へ向かう流れと台風経路が、同一方向となることが多いために洪水が発生しやすい。



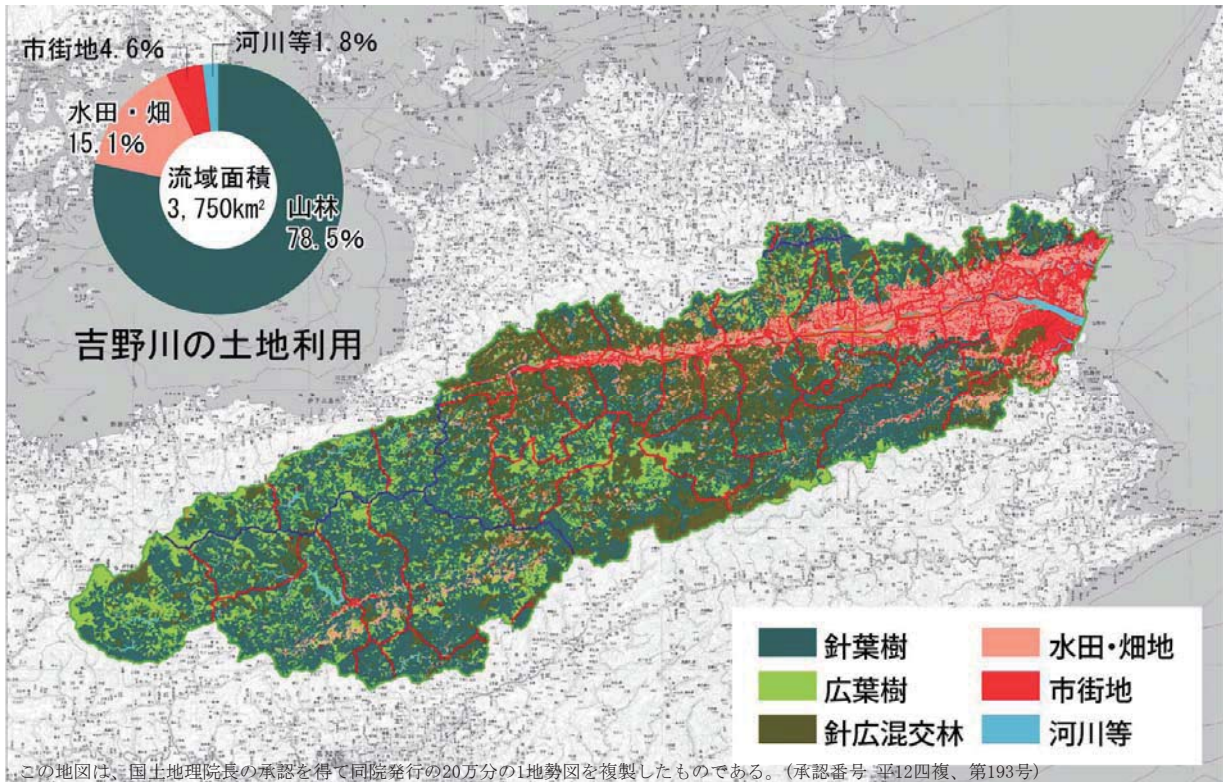
## 吉野川流域の人口

- 吉野川流域は、12市14町2村からなり、流域内の人口は減少傾向にあるが、想定はん濫区域内の人口は横ばい状態である。なお、世帯数は増加傾向にある。



## 吉野川流域の土地利用

- 流域の土地利用区分は、山林が78.5%、水田や畑地等の農地が15.1%、宅地等の市街地が4.6%、河川等1.8%となっている。
- 流域の産業をみると、吉野川下流域の平野部においてはレンコン、ニンジン、かんしょ、ダイコンの生産が盛んである。水産業については、シジミ、アユ等の漁獲や、スジアオノリ、ウナギの養殖業が盛んである。製造業としては、旧吉野川流域を中心に、化学工業、食品業や電気・機械器具等が営まれている。



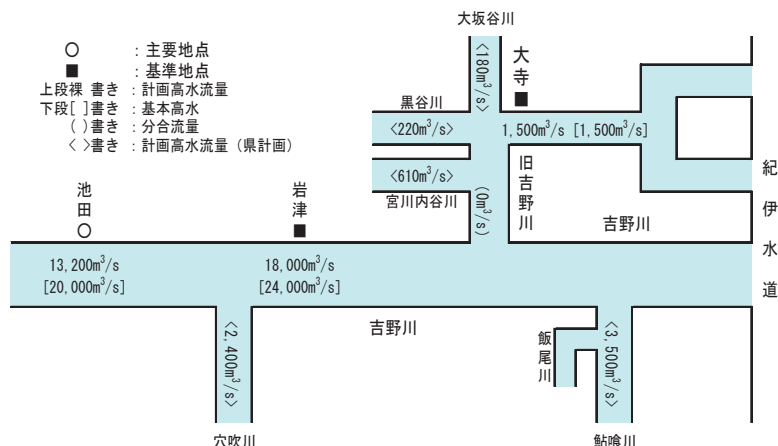
## 吉野川水系河川整備基本方針

- 吉野川の計画規模は基準地点岩津で1/150、計画降雨量は440mm/2日と設定した。
- 基準地点岩津において、基本高水のピーク流量24,000m<sup>3</sup>/sとし、このうち既設の5ダム等、流域内の洪水調節施設により6,000m<sup>3</sup>/sを調整して、河道の配分流量を18,000m<sup>3</sup>/s(計画高水流量)と定めている。

### 吉野川水系河川整備基本方針(平成17年11月策定)の計画諸元

河川名	河川整備基本方針 (流量単位:m <sup>3</sup> /s)			
	計画規模	基本高水のピーク流量	計画高水流量	洪水調節流量
吉野川 (岩津地点)	1/150 (雨量確率)	24,000	18,000	6,000※
旧吉野川 (大寺地点)	1/100 (雨量確率)	1,500	1,500	—

### 流量配分



# 吉野川水系河川整備計画

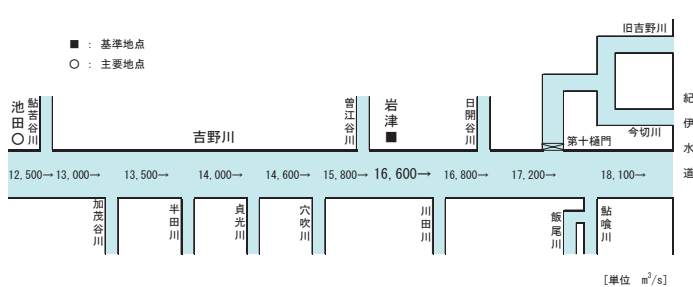
## 吉野川水系河川整備計画(平成21年8月策定)の計画諸元

河川名	河川整備において目標とする流量 (流量単位: m <sup>3</sup> /s)			
	計画規模	目標流量	河道整備流量	洪水調節流量
吉野川 (岩津地点)	戦後最大と同規模	19,400	16,600	2,800
旧吉野川 (大寺地点)	戦後最大と同規模等	1,100	1,000	100

### 流量配分

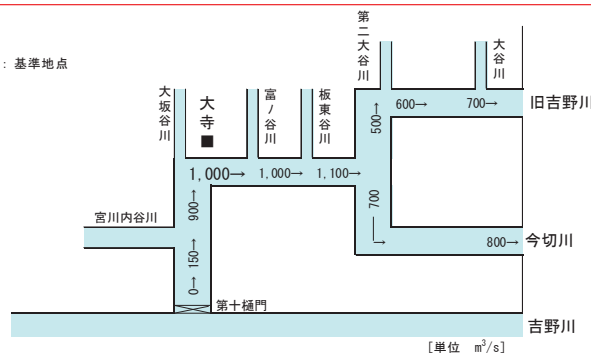
#### ○吉野川

- 上下流の治水安全度バランスを考慮しつつ洪水を安全に流下
- 戦後最大(平成16年 台風23号)と同規模の洪水を安全に流下



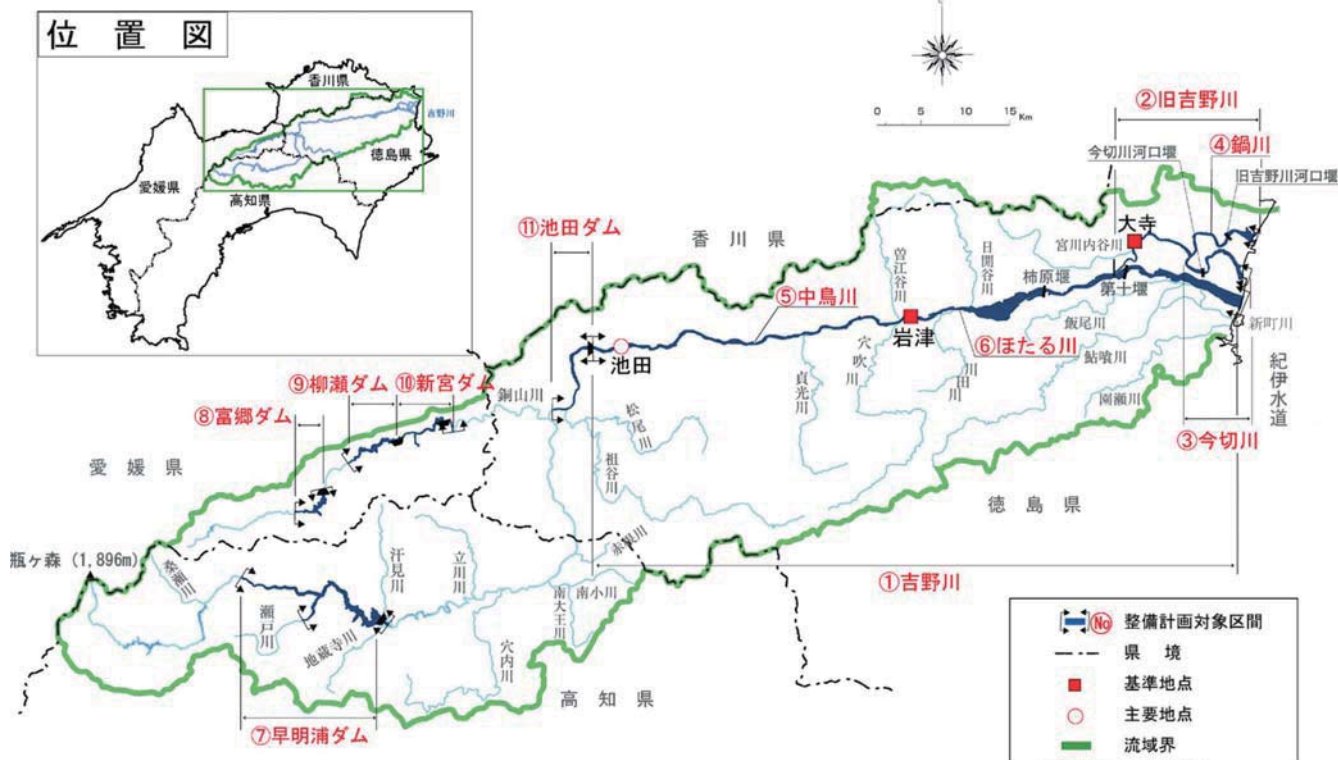
#### ○旧吉野川

- 上下流の治水安全度バランスを考慮しつつ洪水を流下
- 戦後最大(昭和50年 8月 台風6号)と同規模の洪水や昭和36年9月(第二室戸台風)と同規模の高潮に対し、はん濫による浸水被害を軽減し、家屋浸水被害を概ね解消



## 吉野川水系河川整備計画の対象区間・期間

- 「吉野川水系河川整備計画」の対象区間は吉野川水系の国管理区間(下図の①~⑪)
- 「吉野川水系河川整備計画」の対象期間は概ね30年以内



# 河川整備の基本理念

## 安全で安心できる吉野川の実現

上下流の治水安全度のバランスを考慮しつつ、洪水、内水被害、高潮、地震等のさまざまな水害から川沿いの地域住民の人命と財産を守り、人々が安全で安心して暮らせる地域を早期に実現することを目的とする。



平成16年10月台風23号による実績はん濫(東みよし町三加茂)  
 ○平成16年10月の台風23号来襲時には、無堤地区で甚大な浸水被害が発生し、早期に堤防の整備を促進し、無堤地区の解消を図ることが急務



平成16年10月台風23号による飯尾川流域のはん濫被害

○堤防整備済区間では幾度となく内水被害が発生し、平成16年10月の台風23号においても河川沿いの各地区で大規模な浸水被害が発生

## 河川本来の自然環境を有する吉野川の再生

吉野川に残る良好な自然環境や景観を保全するとともに、近年失われつつある吉野川が本来有するレキ河原や水際のなだらかな連続性(エコトーン)、清らかな吉野川の流水など自然環境の再生を図るための施策を展開する。



シナダレスズメガヤの繁茂



水際の直立化

○外来生物(植物)のシナダレスズメガヤの繁茂によるレキ河原の消失やヤナギ類の樹林化に伴う水際の直立化による水辺のなだらかな連続性(エコトーン)の消失、外来生物による在来生態系への影響が懸念



表情豊かに流れる水が存在する景観

○吉野川の河川景観は、自然の力により形成されたものであるとともに、地域社会の歴史の中で形づくられた特徴的な景観である。

## 地域の自然・景観・社会環境に調和し個性ある吉野川の創造

地域の自然環境と景観や社会環境に調和した河川空間を創出し、流域住民の積極的な自然体験活動や環境学習等の利用を促進するための施策を展開する。



アユ釣り



河川敷にある農地(上板町) 吉野川左岸河口より19km付近



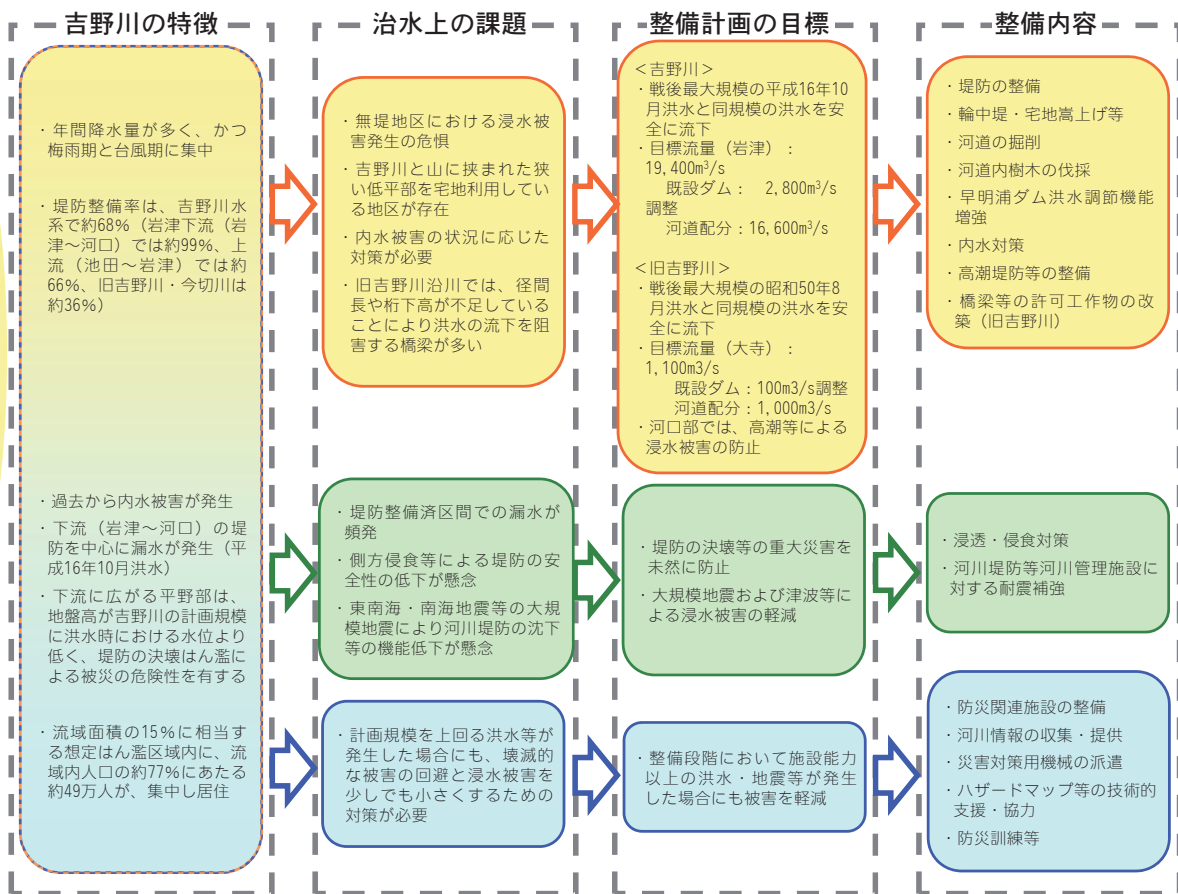
水生生物調査(東みよし町) 吉野川右岸河口より64km付近



漕艇の練習(北島町) 旧吉野川河口より9km付近

○河川空間は、心身両面において健康の維持に重要な役割を果たしており、今後も、多くの人々がより一層川と親しむことが出来るよう、人と川とのふれあいに関する施策に取り組みが必要。  
 ○市民団体等の各種団体による河川清掃やイベントが盛んに実施されていることから、これらの活動と連携した取り組みが必要。

## 整備計画の整備内容(治水面)



# 整備計画の整備内容(利水・環境面)

